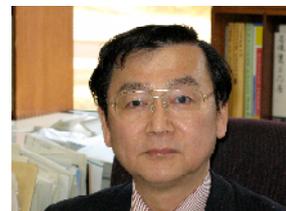


2018年12月20日



菊池 満 (AAPPS-DPP 会長、兼 最高執行責任者(CEO))

アジア太平洋物理学会連合プラズマ物理部門/分科会は、千葉幕張で2013年7月に開催されたAPPC-12で300名強のプラズマ関係者が参加したことをきっかけに、永宮正治AAPPS会長(当時)の依頼により、中国、韓国、インド、オーストラリア、日本、台湾、アセアンの92名が発起人となり2014年1月に台北で開催されたAAPPS理事会で第1号部門(会長: 菊池満(原子力機構上級研究主席(当時)))として発足が認められたものです。

AAPPS-DPPは、プラズマ原理、基礎プラズマ、プラズマ応用、レーザープラズマ、スペースプラズマ、太陽・天体プラズマ、磁場核融合プラズマなどの広範なプラズマ領域の研究者の相互交流と共通基盤としてのプラズマ物理学を振興することを目的としている。

その一環として2014年からチャンドラセカールプラズマ物理学賞を選考しており、2016年のAPPC-13において2014-2016年の受賞者の表彰式を行った。2017年からはDPPの年会を始め、第一回年会を中国成都で2017年9月に開催し、(<http://aappsdp.org/DPP2017/index.html>)、第二回年会を2018年11月に金沢市で開催した(<http://aappsdp.org/DPP2018/index.html>)。

本学会では、チャンドラセカールプラズマ物理学賞に加え、若手賞(U40)、学生賞(U30)、ポスター賞も設置し、優れた研究に対して顕彰を行っています。

さらに、アジアには有力な論文誌が少なく、米国物理学会のフィジカルレビューレター(PRL)やレビューオブモダンフィジックス(RMP)などに投稿するのが常でしたが、AAPPS-DPPでは、論文誌としてSpringer-Nature社の協力を得て、レビュー論文誌RMPP(Reviews of Modern Plasma Physics)を2017年から立ち上げ、論文誌運営としても第3極を形成すべく活動を始めています。

<https://www.springer.com/physics/atomic,+molecular,+optical+&+plasma+physics/journal/41614>

年会の運営が順調に進められたことを踏まえ、2018年11月に任意団体から一般社団法人へと移行を行いました。会員の皆様の研究活動の役に立つべく学会の運営にあたりたいと考えています。皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。